

北海道大学病院に通院中の患者さんまたはご家族の方へ
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 機械学習を用いたリネゾリドによる骨髄抑制リスク推定モデルの構築

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属] 菅原 満 (薬剤部・部長)

[研究の目的]

リネゾリド (linezolid ; LZD) はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌による院内感染症などに使用される抗菌薬です。LZDの代表的な副作用として、血小板減少症や貧血などの骨髄抑制が知られており、その発現により、治療中断を余儀なくされる事例が散見されます。LZDによる骨髄抑制は、ベースラインの腎機能障害、長期投与、低体重などの患者に起きやすいことが知られていますが、それらの組み合わせによりどの程度副作用のリスクが上昇するかは定かではありません。

我々は過去の研究において、機械学習法の一つである Decision Tree (DT) 解析を利用することで、複数の要因の組み合わせを考慮した副作用発現リスクを簡単に推定できることを見出しました。

本研究では、このDT解析を用いてLZDによる血小板減少症ならびに貧血のリスク推定モデルを構築し、構築したモデルの精度を検証することを目的とします。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2008年11月～2019年3月に、北海道大学病院入院中においてLZDが投与された18歳以上の方を対象とします。

○利用するカルテ情報

年齢、性別、身長、体重、病歴、診断名、治療歴、入院病棟、入院診療科、併用薬、血液学的検査(血清クレアチニン値、白血球数、赤血球数、血小板数、ヘモグロビン値)、LZD投与経路(内服または注射)、投与量、投与期間など

[研究実施期間] 実施許可日～2022年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 12 条西 6 丁目

北海道大学大学院 薬学研究院 今井 俊吾

電話 011-706-3978 FAX 011-706-4984